

令和 5 年度 事業計画

(自 令和 5 年 4 月 1 日 至 令和 6 年 3 月 3 1 日)

方 針

わが国の酪農は昨年 2 月のロシアによるウクライナ軍事侵攻に端を発する社会不安と歴史的な円安ドル高によって飼料をはじめ酪農生産資材価格は高騰し、さらにはコロナ禍等による牛乳・乳製品の消費停滞に伴う生乳の生産調整の実施により、全国の酪農家はかつて経験したことのない苦境に直面しています。

これに対して、昨年 11 月の飲用向け乳価引上げに続き、本年 8 月にも飲用向け等乳価の再度引上げが合意され、国においても酪農緊急支援対策として、粗飼料増産や配合飼料購入への緊急及び継続支援や搾乳牛の早期リタイアに対する奨励金交付等が講じられています。しかしながら、それを待たずに酪農家の離農がなお進行し、都府県では酪農家戸数が前年同期に比べて 8.7% 減との深刻な状況が報告されています。

このように酪農家戸数の減少が加速化する中で、その影響は当協会の登録事業にも及んでおり、特に昨年秋以降は血統登録頭数や牛群審査受検戸数・頭数の減少が顕著です。この厳しい酪農環境の中で、如何に効率的な泌乳生産と長命連産の向上を行うために血統登録や牛群審査、牛群検定等情報の掌握は必至です。乳牛の改良は、一旦断ち切ると回復するまでに数世代かかるものであり、それ故、自群の環境により適応した優良な血統を継承することこそが、酪農経営を続けるうえで重要なアイテムになります。

当協会では、乳牛改良を通じて会員酪農家の経営の維持安定に少しでも寄与できるよう、引き続き、安価で申込書不要の「自動登録」を推進するとともに、牛群審査や牛群検定成績を活用することによって、健康で長命連産し、より高い生涯生産能力を発揮できるような優良な牛群づくりをアシストしていきます。加えて、自動登録農家には是非とも「自動登録同時 SNP 検査申込」を推進して、グラフ化等による見やすい様式による改良情報提供と自動登録料金の割引奨励を行うとともに、SNP 還元情報の充実とより精度の高いゲノミック評価値の普及拡大を図っていきます。

また、令和 7 年 10 月には 10 年ぶりとなる第 16 回全日本ホルスタイン共進会を北海道安平町で開催するにあたり、その成功に向けて万端の準備を進めていく所存です。

1. 血統登録、審査及び検定

(1) 血統登録では引き続き、申込書不要で安価な「自動登録」の一層の普及定着を図るため、支部・承認団体と連携して、自動登録普及のための講習会の開催や牛群審査時における自動登録推進等、積極的な普及対策を実施する。また、正確な登録を実施するために、現場における出生子牛とその母牛の確認の徹底をお願いするとともに、親子判定抜取調査等により血縁のチェックと血統疑義牛の親子判定調査の徹底を図る。

なお、令和 5 年度血統登録等の計画頭数は、支局並びに支部・承認団体からの見込頭数を勘案し、血統登録 206,115 頭（本局 41,115 頭、支局 165,000 頭）、移動証明 3,970 件（本局 2,570 件、支局 1,400 件）を見込む。

(2) 長命連産並びに生涯生産能力の向上のため、体型では牛群審査の推進と併せて後代検定

体型調査農家における牛群奨励審査の受検奨励に努める。また検定では、各産次の検定成績及び生涯検定成績を登録に結びつけるため、検定成績証明牛群一括や自動継続申込の普及推進を行う。

なお、令和5年度審査・検定成績証明の計画件数は、審査成績証明 22,790 頭（本局 8,320 頭、支局 14,470 頭）、検定成績証明 72,400 件（本局 3,920 件、支局 68,480 件）を見込む。

- (3) 遺伝的に優れた乳用後継牛の早期選抜に有効なゲノミック評価の普及推進を図るため、牛群検定を実施している自動登録農家に対して登録料が半額になる「自動登録同時 SNP 検査申込」等、SNP 検査の普及推進を行う。

2. 登録、育種改良のための情報収集、調査研究及び情報提供

- (1) スマートフォンやパソコンで検索できる「近交情報システム Web」や検定成績証明一括申込農家向けの「登録情報活用システム (RIUS)」、自動登録同時 SNP 検査申込農家向けの「農家還元情報 Web」、体型審査受検農家への情報還元の拡充に努める。また、高得点牛、高能力牛等について、本会ホームページや機関誌等によって広く情報提供していく。

(2) 調査研究事業

- 1) 乳用牛群検定全国協議会事業に係る、後代検定事業に必要な初産検定牛（後検材料娘牛及び同期牛）の体型データ収集と同協議会への提供、併せて体型調査農家への情報還元を行う。
- 2) 乳用牛群検定全国協議会事業に係る、(独)家畜改良センターが行う泌乳能力及び体型の遺伝評価に必要な血縁ファイルの作成と同協議会への提供を行う。
- 3) 乳用牛群検定全国協議会事業に係る、搾乳ロボットに関連した体型形質等のデータ収集と、搾乳ロボットへの適合性指数等の開発を行う。
- 4) (一社)家畜改良事業団から委託を受け、「乳用牛能力向上事業」に必要な SNP データによる血縁矛盾調査並びにゲノミック評価手法の開発・検証を行う、等。
- 5) ゲノミック育種価の精度向上と、前年度開発した耐病性指数普及に必要な疾病等データの継続的利活用システムを構築するため、JRA 畜産振興事業を申請中。

- (3) 家畜改良関係 5 団体で構成される「乳用牛改良推進協議会」に参加して、今後のわが国乳用牛改良の円滑な推進に必要な調査や技術開発、普及啓発、情報発信等を行う。

- (4) 家畜の飼養管理等の生産情報を一元的に集約し、家畜改良や飼養管理の効率化・高度化を行うための畜産情報利活用促進システムの全国的な利用に資するために設置された「畜産クラウド全国推進コンソーシアム（共同事業体）」に関して、参加の方向で引き続き協議を進める。

- (5) 世界ホルスタイン・フリージアン連盟 (WHFF) に引き続き参加し、本年は 11 月にフランスで開催される第 16 回世界ホルスタイン会議に出席して、主要国における最近の登

録・改良事情をはじめゲノミック評価や近親交配、遺伝病、繁殖等に関する情報収集に努める。

3. 登録、審査に関する研修会、講習会及び共進会の開催

(1) 登録委員研修会の開催

登録事務の伝達と円滑な遂行を図るために、登録委員を対象とした地区別登録委員研修会を夏期に都府県5ブロックで開催する。

(2) 支部・承認団体登録事務担当者会議の開催

支部・承認団体における登録事務のより円滑な遂行を図るため、支部・承認団体登録事務担当者会議（夏期および冬期）を開催する。

(3) 中央審査研究会の開催

体型審査のより高度な技術習得を図るため、乳牛改良指導に携わる都道府県並びに支部・承認団体、関係機関の技術者を対象に中央審査研究会を開催する。

(4) 第16回全日本ホルスタイン共進会開催の準備

令和7年10月25、26日に北海道安平町で開催する第16回全日本ホルスタイン共進会に向けて、開催地北海道並びに各都府県支部・承認団体等関係団体の協力の下、万全の準備を進めていく。

4. 機関誌の発行等

(1) 機関誌の発行

(一社)全国酪農協会発行の全酪新報に年4回（7、9、1、3月）、「日本ホル協特集号」として機関誌を発行し、会員並びに関係者に直送する。また、全酪新報の毎月20日号に「ホルスタイン牛の広場」として登録や改良情報を提供する。

(2) 「登録委員だより」等の発行

「登録委員だより」、「ホルスタイン登録の手引き」、「ホルスタインの見方」、「線形評価法」等の冊子のほか、「ホルスタイン手帳」を作成して配付する。

5. そのほか本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 日本ジャージー登録協会の委託を受けて、ジャージー種の登録事業を行うとともに、全国ジャージー酪農振興協議会、全国ホルスタイン改良協議会等の事務局業務を受託して行う。本年4月14～15日に、静岡県御殿場市で第10回全日本ブラックアンドホワイトショウを、セントラルジャパン・ホルスタインショウと共同で開催する。

(2) 日本ホルスタイン会館の運営に必要な管理・整備に努める。